



たいじゅ もり  
大樹の森

10月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fudomaru/>



## 鬼ごっこから育つもの

校長 山下 謙一郎

夏の暑さが和らぎ、待ちに待った秋の到来を肌で感じる季節となりました。熱中症への懸念から校庭での外遊びに心配が尽きない夏でしたが、秋は体を動かすにはとてもよい季節です。

さて、校庭で遊んでいる子どもたちの様子を見てみると、今も昔も変わらぬ遊びが目に入ってきます。ドッジボールや鬼ごっこは、その代表的なものですね。私の知人の大学の先生で鬼ごっこについて追究している方がいます。その方によれば、鬼ごっこは児童の健全な育成に向いている最強の遊びの一つだとお話されています。

まず、鬼ごっこは「体を育てる」ことができます。身体的な活動量が豊富な遊びで、運動の得意不得意に関わらず、楽しみながら体を動かすことができます。コロナ禍に加え、日常的に室内遊びが多くなっている昨今にあって、外で思い切り体を動かすことは大切なことだと私も思います。

次に、「心を育てる」ことができます。鬼ごっこがいつの時代にも子どもたちの遊びとして根付いてきたのは、ルールの柔軟性があるからだと言われています。人数、場所、道具など状況や集団に合わせて変えながら取り組むことが可能なことが特徴の一つです。どんな子でも楽しめるように、みんなで「特別ルール」を考えることで、誰もが楽しめるような配慮ができるようにすることも、幼少期の学びとして大切なことだと思います。

さらに、「仲間意識を育てる」ことができます。さまざまな種類がある鬼ごっこの中には、みんなで力を合わせて取り組まなければならないものも多くあります。手をつないで走るもの、タッチをして助けに行くことができるもの、作戦を立てて取り組むものなど、仲間がいるからこそ楽しめる要素がいっぱいあります。集団で取り組む楽しさを感じることで、社会性を育む一歩になると考えることができるのではないのでしょうか。

元気に校庭で走り回る姿を見ていると、「今日はどんな育ちがあるのかな」と思わず微笑んでしまう秋の始まりです。